



# シモマツチの 校長随想

～教育は過去からの贈り物、そして未来へのメッセージ～

下町壽男 前岩手県立花巻北高等学校校長

## 第12回

# めかる 銘苳選手にみる主体的な学び

以前、勤務校だった花巻北高校にプロハンドボールの銘苳淳選手をお招きして、クリニックを行ったことがありました。私は「学び」の本質を突く彼の指導に、目が釘付けになりました。彼のクリニックを「教育論」「授業論」として振り返ってみたいと思います。

### □「基礎」の概念が変わる

最初に体幹を鍛える基礎トレーニングが行われました。基礎というと往々にして、局所的で型どおりのものを中心で、選手は、与えられたメニューを、黙々と「こなす」ことに終始しがちです。まるで、「辛くて苦しいこと」自体が基礎練習だというコンセンサスが、指導者と選手の間でできあがっているかのように。

しかし、学校にお招きしてのクリニックの際は、そのトレーニング一つひとつに、複合的に様々な筋力を鍛えるような仕掛けが施されていました。そして、何より、そのトレーニング自体が楽しくワクワクするものでした。心地よいリズム感とともに、

スピーディーに展開されるエクササイズを、選手たちが楽しそうに活動する姿を見ながら、私は授業における基礎・基本の指導について考えていました。

アクティブ・ラーニングが現場に入ってきたとき、こんな声をしばしば耳にしました。

「基礎力のない生徒に対話型授業は無理。今は基礎・基本を身につける段階だ」

私は「ならばその基礎を身につける過程をアクティブにできないか」と問いかけました。

すると「基礎ができていない生徒には板書をキチンとノートに写すなどの習慣化が先決」とか、「そもそも授業とは黙々と基礎を身につける場であって、そんな賑やかしの授業をすると収拾がつかなくなる」などという答えが返ってきました。

そこには、「できない生徒」には主体的な学びはむしろ害をなすという決めつけが見えました。さらにいうと、彼らの言葉は、自分の一方向型授業スタイルを正当化するエクスキューズのようにも感じました。

銘莉さんのトレーニングはバラエティー豊かで、それ自体が楽しく、選手のテンションがどんどん高まっていきます。また、基本的にペアによる活動なので、自然と対話が生まれています。感心したのは、どんなエクササイズでも、言われたことをただ受動し、全員が同じことをするのはなく、自由な動きを意識的に入れることを強調されていることです。

□ 「自由」を強調

銘莉さんは「自由」という言葉を盛んに語ります。例えば、攻防のドリルでは、「デイフエンスが自由な発想で動きをつくることで、オフエンスも自ら考えだす。そこにアイデアが生まれる」と表現されます。つまり指導者の説明を鵜呑みにするのではなく、デイフエンスとオフエンスの両者の主体的で自由な発想が、相乗効果を生むという考え方です。

彼はまた、対話の重要性も指摘します。3対3の練習を行っていたとき、「形式的」にパターンをこなしている選手がいまし

た。それを察知した銘莉さんは瞬時に、わかっていない選手が、わかっていないと思われの人に説明をするよう促します。彼はこう言います。

「わかっていると思っても、言語によって人に説明できなければわかっていないことにならない。人に説明することによって、自分自身の理解も深めていく」

その結果、対話が起こり、練習が深まっていきました。他者に説明する活動が、自分自身の深い理解にも結びついていくという、学びの正鵠を射た彼の話に膝を打ちました。

銘莉さんは、最後に選手たちを集めてこんな話をします。

「ハンドボールをすることによって、皆さんがハッピーになって欲しい。そのためには、失敗を恐れずトライすること。自由が与えられたら、その自由をもっと楽しまなければだめです。皆と一緒にいい、先生もっと教えてください、なんて言っているようではダメですよ。そして、自分をもっと高めるといふ楽しさを身につけると、そ

れはハンドボールだけではなく、他の世界にもつながっていきます。だから、皆さんがハッピーになったら、そのことによって、皆さんの周りの人間をハッピーにしていく。そういう人になってください」

ハンドボールという競技における技能の向上にとどまらず、学び続ける楽しさを会得すること、そして、ハッピーを広げていくという大きな目標が語られ、濃密な時間が締めくくられました。

私は「主体的・対話的で深い学び」とは、授業手法のことではなく「価値を創造するための学び方・学ぶ力」のことだと思えます。だからそれは単なる教科の学習定着率の向上を超えて、人生のあらゆる場に応用されていくものであるはずです。

そして、そのような「学ぶ力」は「生きる力」となり、自分の人生を豊かにするとともに、他者や社会を幸せにするベースとなっていくことと思います。

銘莉さんの人間的魅力は、そういった学ぶ力が体現されたものなのだとしみじみ思いました。